

新まちづくり計画（H16～18）追加補強事業総括調書 （単位：千円）

予 算 事 業 名		さっぽろ雪まつり魅力アップ事業	
担 当		観光文化局 観光部 観光企画課 事業係 山口 211-2376	
基 本 目 標		1	元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ
重 点 戦 略 課 題		3	協働による観光振興とコンベンション事業の推進
施 策		4	住んで快適、訪ねて楽しいまちづくりの推進
関 連 新 ま ち 計 画 事 業 名			
		予算額	決算額
事 業 費		25,000	32,120
財 源 内 訳	国・道支出金		
	市 債		
	そ の 他		
	一 般 財 源	25,000	32,120
事業実施(拡充)の背景・目的・考え方		事業費の主な内 訳	
雪まつりについては、市民をはじめ道内外から訪れる観客数の伸び悩みや、まつりのマンネリ化などさまざまな課題がある。また、第56回さっぽろ雪まつり(平成17年2月実施)をもって、第2会場である真駒内会場が廃止された。それにより、新たな会場構成や、雪まつりそのものの見直しが必要となった。 そこで、市民フォーラムや市民ワークショップ、関係団体との懇談会など、さまざまな場での意見聴取、議論を行ってきた。これらの意見・提案をもとに雪まつりの将来構想案を平成17年12月に提案し、平成18年5月に策定、第58回さっぽろ雪まつり(平成19年2月実施)より、将来構想に基づき事業を実施した。 今後の雪まつりのあり方として、より一層の市民参加の促進や、新たな魅力づくりなどさまざまな取り組みが必要であり、市民参加のもとで新たな会場づくりが必要である。市民組織による自主運営体制の導入や、参加・体験型プログラムを充実させることにより、市民離れやマンネリ化が指摘されている雪まつりの魅力アップを図り、さらなる集客増につなげていきたいと考えている。 第57回開催については、雪まつり実行委員会による試行的な会場として、「サッポロさとらんど」で実施された。第58回以降の会場選定については、平成18年5月実行委員会にて正式にさとらんど会場が決定された。		○市民参加促進 1,499千円 ・レリーフ制作及び指導業務 1,499千円 ○おもてなし向上 29,408千円 ・仮設物設置撤去業務 7,093千円 ・電気設備設置撤去業務 1,205千円 ・駐車場整備業務 10,500千円 ・警備業務 7,140千円 ・看板制作業務 2,000千円 ・場内循環バス運行業務 1,470千円 ○臨時職員 1,212千円	
事業内容(量・場所・規模等)		<18年度> ○市民参加促進費 主にさまざまな形での新たな市民参加の仕組みづくりの構築及び、参加団体への支援を実施。 ○おもてなし向上費 前回の交通渋滞に対する対策として、臨時駐車場を増設しそれに係る整備費や、周辺道路の交通整理に係る警備費、車両の誘導看板、また、駐車場 会場間の来場者輸送のための循環バス運行を実施した。会場内整備として、休憩所、トイレ設備の充実など、来場者へのおもてなしの向上図り、にぎわいを増す新たな魅力づくりを実施した。	
評 価 (成 果)		課 題	
市民意見として、参加・体験型の会場が求められている中、雪まつりの新たな魅力作りの実践の場として、さとらんど会場を実施している。 市民参加の場の提供、また、来場者へのおもてなしの向上により、来場者数も年々増加していることから、本市における集客交流の促進につながっている。		さっぽろ雪まつりのさらなる魅力アップを図ることにより、スポンサーによる協賛収入等、会場維持費の捻出が必要である。しかしながら、昨今の社会情勢のあり、協賛金が減少し収入確保に苦慮しており、平成18年度が本格実施となったばかりのさとらんど会場において、実績が乏しい中、協賛収入を得ることは、難しい状況にある。また、会場管理者をはじめ、民間組織による自主運営の拡大をさらに検討する必要がある。	
19 年 度 以 降 の 方 向 性 ・ 事 業 の 予 定			
市民組織の育成に3年を予定しているが、18年度の実施結果を検証すると事業費が不足している。21年度以降については、主に自主運営による事業展開を考えているが、継続的に20年度までの市民参加を促進する必要があることから、新規団体の育成をさらに続ける。			